

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度		科目名	番組制作 4	
科目基礎情報							
開設学科	放送芸術科		コース名			開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	60時間
単位数	4単位					授業形態	講義
教科書/教材	教科書/教材/資料については授業内に適時配布						
担当教員情報							
担当教員	コトブキツカサ・高沢敦博			実務経験の有無・職種	有（映像業務全般）		
学習目的							
映像製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。							
到達目標							
学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。☒						
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	レポート	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	主な実習内容			主な各回の到達目標			
1回	巨匠の映画術⑥			アルフレッド・ヒッチコック監督作品ほかを使い、映画史を遡る			
2回	巨匠の映画術⑦			フランソワ・トリュフォー監督作品ほかを使い、ヨーロッパ各国の差異を学ぶ			
3回	巨匠の映画術⑧			イングマール・ベルイマン監督作品ほかを使い、キリスト教とヨーロッパ映画の関連を学ぶ			
4回	巨匠の映画術⑨			フェデリコ・フェリーニ監督作品ほかを使い、当時の技術、技法を学ぶ			
5回	巨匠の映画術⑩			黒澤明、小津安二郎、溝口健二監督らの作品を使い、ヨーロッパに好まれた日本の特性を学ぶ			
6回	ドキュメンタリーの軌跡①			アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ①			
7回	ドキュメンタリーの軌跡②			アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ②			
8回	ドキュメンタリーの軌跡③			アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ③			
9回	実写とアニメーション①			「スパイダーマンシリーズ」などを例に、コミック→実写→アニメ→融合を学ぶ			
10回	実写とアニメーション②			ジブリ作品の実写化などを例に、表現の特殊性とミスマッチを研究する			
11回	実写とアニメーション③			「犬が島」などを例にストップモーションなどアニメーションの歴史を学ぶ			
12回	LGBTと映画①			LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する①			
13回	LGBTと映画②			LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する②			
14回	LGBTと映画③			LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する③			
15回	アジアにおける日本			日本映画の現在地とアジアの歩みを学ぶ			